ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

№２４－６

平成２５年　３月２７日

農業総合センター有機農業推進室
http://www4.pref.fukushima..jp/nougyou-centre/
TEL（024）958-1711

福島県有機農業者等交流セミナーを開催

農業総合センター有機農業推進室

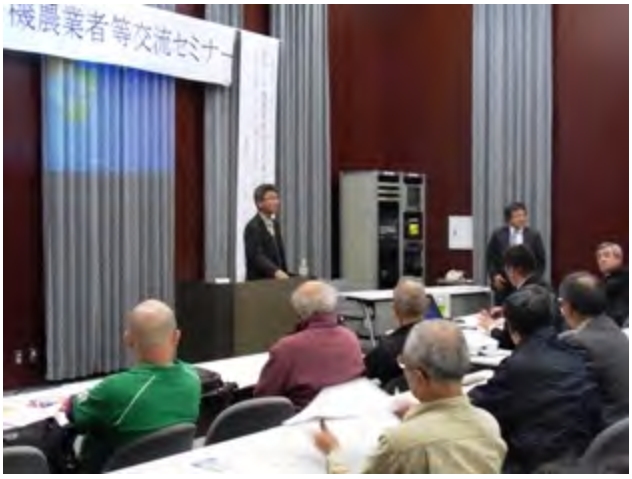
３月１３日（水）に、郡山市の「ビッグパレットふくしま」において『福島県有機農業者等交流セミナー』を開催いたしました。

参加者した有機農業者は、県内全域から合計３５名（県北８名、県中６名、県南４名、会津９名、相双６名、いわき２名）でした。

セミナーは二つの講演が行われ、最初に東都生協の吉澤正義氏から「福島の有機農産物販売を考える～東都生協の取組みから～」という題で、管内の茨城県の産地でも影響を受けた原発事故の風評被害に対して実施した方法、「いかに消費者との『対話』づくりを行って、心で繋がるか」ということを話していただきました。

吉澤氏の講演を聴く参加者

次にオーガニックコーディネーターの南埜幸信氏から「福島県の有機農業の復興のために」という題で、「福島で持続可能型社会のモデルを作り世界へ発信する」ことと「有機農産物生産者と加工メーカー、流通業者、飲食業者など志を持つメンバーでコンソーシアムを設立し、福島のオーガニック復興を担おう」というお話しをしていただきました。



南埜氏の講演を聴く参加者

その後、「米穀の部」と「青果物等の部」の２つの分科会に分かれて、活発な討議が行われました。

「米穀の部」は、環境保全農業課の二宮信明主任主査を座長に、南埜幸信氏に加え日本販売農業協同組合連合会の中塚敏春氏をアドバイザーに、「平成２５年度産米はこうして売る！」をテーマに討議されました。

「青果物等の部」は、有機農業推進室の菅野弘一キャップを座長に、吉澤正義氏に加え岩手中央青果の高橋大江氏をアドバイザーに、「福島県産青果物を売り抜く！」をテーマに討議されました。

分科会「米穀の部」

分科会「青果物等の部」

平成２４年度実証ほ成績検討会を開催

農業総合センター有機農業推進室

３月６日(水)に、農業総合センターにおいて「平成２４年度実証ほ成績検討会」を開催いたしました。

平成２４年度は、「農業新技術・新品種普及定着事業(有機農業ステップアップ普及定着事業)」では、県内２７か所に実証ほ場を設置し、有機農業技術の向上及び導入促進を図るために、農業者自らが技術や成果を確認するための拠点としてきました。また、「水と土を守る！環境と共生する農業実践事業」では、県内３か所にモデル拠点ほを設置し、中山間地域での有機栽培、特別栽培の確立を図ってきました。

実証ほの試験成績概況を報告

実証ほ検討会には、16戸（県北 7、県中 3 県南 1、会津 2、南会津 2、いわき 1 ）の実証ほ担当農家の出席がありました。

すでに、県内各地に設置した実証ほ場のいくつかについては、本年度の本誌においても紹介してきましたので、お読みいただいた方も多いかと思います。

検討会では、農業総合センター有機農業推進室、会津農林事務所、双葉農業普及所の有機農業担当が各実証ほの本年度の成績概況について報告した後、実証ほ担当農家から忌憚のない感想、意見が述べられました。

意見を述べる児島三雄さん（会津美里町）

実証ほの対象作物は、水稲、野菜と別々ではありますが、各実証ほ担当農家に共通する雑草発生抑制方法や病害虫防除については、活発な質疑と議論が行われました。

さらには、収穫した有機農産物の販売にまで議論が発展し、風評被害による販売不振の現状や今後に対する考えまで語っていただける場面もあり、実証ほ担当農家相互の情報交換の場ともなりました。

会津方部で有機農業研修会を開催

会津農林事務所農業振興普及部

２月８日（金）に、湯川村の会津農業共済組合大会議室において「放射能に負けるな！ゆうきをもって取り組もう」をテーマとした研修会を開催しました。当日は、有機農業に係わる農業者や関係者119名が出席しました。

研修内容は、茨城県石岡市の魚住農園代表である魚住道郎（うおずみみちお）氏による講演と、福島県オーガニックコーディネーターの南埜幸信（みなみのゆきのぶ）氏の提言などで、有機農産物加工品や有機関係資材の展示なども行いました。

講師の話に熱心に耳を傾ける参加者

魚住氏の講演は、「今日のさまざまな汚染下での有機農業の持つ意味と生き方について～消費者グループと連携した宅配による販売での経営確立～」という演題で行われ、放射能ばかりではなく農薬等の化学物質による汚染についても述べられました。また、福島県の農家を支援するため、トラクタやサブソイラを運んで、反転耕により放射能汚染を低減する活動をしている話も紹介がありました。

有機関連資材の展示紹介

南埜氏からは、「『福島県オーガニック・コンソーシアム』の設立にむけて～有機農業を核とした６次産業化ネットワークの構築～」というテーマで提言がありました。「コンソーシアム」とは異業種連合による事業共同体のことで、他業種と連携して多様な商品開発を行うことで、有機農産物の流通量を拡大することを目的にしています。

参加者からは、多くの質問や現状に対する意見が出され、盛況な研修会になりました。

有機農産物加工品や有機関係資材の展示光景

『会津自然塾』設立10周年記念祝賀会が盛大に開催

会津農林事務所農業振興普及部

３月９日、会津美里町瀬戸町にある“野菜ビュッフェレストランいわたて”において、有機農業生産組織「会津自然塾」設立１０周年記念祝賀会が盛大に開催されました。節目となる記念日には、全国から関係者３５名が駆けつけ、さらなる飛躍を誓いました。

「会津自然塾」は平成１５年に設立され、これまで有機農業の実践と啓蒙、有機農産物の宅配活動に取り組んで、生産者と消費者をつなぐ交流活動を定期的に開催してきました。現在、有機栽培農家は１４戸で、会員数は８５名です。祝賀会に先立ち、新たな事業の展開を目指して、「ＮＰＯ法人会津自然塾」の設立が承認されました。

これまでの組織活動について紹介

鹿野義治代表は、「環境保全型農業における有機農業の重要性や農業者と消費者の役割などについて相互理解を深め、さらに信頼性をひろめていくことが使命。今後、若い世代につなぎ新たな仲間づくりのできる場を設けていきたい」と、将来への抱負を力強く述べていました。

来賓として、会津農林事務所農業振興普及部の川島寛部長から「本県を代表する有機農業生産組織で、これまでの環境保全に対する活動について敬意を表し、引き続き地域のリーダーとして､産地を牽引していただきたい」との祝辞がありました。

会員による「花は咲く」の歌声披露

また、代表から「有機農産物宅配便が繋ぐ生産者と消費者の絆」と題し、これまで行ってきた１０年間の組織活動について、紹介がありました。この活動は高く評価され、平成２０年に農林水産省主催の第１４回全国環境保全型農業推進コンクールで奨励賞を受賞しています。

会場となったレストランで出されたメニューは、地元会津美里町の新鮮で美味しい野菜を使用しており、出席者にはとても好評でした。また当日は、特別ゲストとして、会津若松市在住の岩沢麻美さんによるフルートの演奏会が開かれ、味覚と聴覚が満たされた、すてきな祝賀会となりました。更なる当会のご発展を祈念いたします。

≪お知らせ≫

○ 有機農業についての疑問や技術についてのご質問は、有機農業推進室までご連絡下さい。

携帯電話、パソコンからアクセスして下さい。

メールアドレス：yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp　電話：024-958-1711

相馬市で有機栽培米栽培研修会を開催

相双農林事務所双葉農業普及所

意見交換中の参集者

平成２５年３月１４日に相双農林事務所主催で「有機栽培米栽培研修会」を行いました。

相馬地方の有機米生産者の多くは、原発事故の影響で作付が制限されており、相馬市の生産者のみが栽培しています。

研修会には、相馬市内の有機米生産者６名と、関係機関・団体が出席しました。

始めに双葉農業普及所有機農業担当から、有機ＪＡＳで使用できるカリ肥料を活用した放射性セシウムの吸収抑制対策等について説明しました。続いて県農業総合センター有機農業推進室から有機ＪＡＳ認定資材の紹介、農林事務所から環境保全型農業直接支援対策について説明した後に、意見交換が行われました。

有機米生産者からは、米の放射性セシウムが検出下限値未満であるにも関わらず風評被害で顧客が大幅に減少した、東京電力に対する個人での賠償交渉では放射性セシウム吸収抑制対策の経費が認められず困っている、などの苦しい状況が報告されました。

平成２５年度は福島県営農再開支援事業を活用し、放射性セシウム吸収抑制対策資材の散布に共同してとりくみ、厳しい状況に立ち向かっていくことを申し合わせました。

「ふくしまの有機農産物生産者マップ」改訂版を作成

農業総合センター有機農業推進室

新しい『生産者マップ』

福島県では、平成２０年３月に皆様の御協力を得て「ふくしまの有機農産物生産者マップ」を作成し、県内外の消費者等へ配布することで、県産有機農産物のＰＲや販路拡大を図ってまいりましたが、新たに有機農業を開始された農業者の方が多数おられること等から、改訂版を作成しました。

前回はＡ４版６ページでしたが、今回は１ページの大きさは前回の1/3と持ちやすい大きさで、全１２ページになるよう折りたたんでいます。

掲載した事業者数は、１ページ３か所で、合計２９の生産者・生産グループになりました。

原発事故の影響で、相双地方からの掲載希望者は大幅に減りましたが､会津地方やいわき地方からの掲載希望者は増加しました。

交流セミナーに参加された方にはお配りしましたが、今後も県内外の消費者等へ配布する予定です。

≪コラム≫ オーガニックの最新事情

オーガニック・コーディネーター　　南埜　幸信

早いもので、震災と原発事故からもう２年が経過しました。まるで昨日のように、記憶には鮮明に残っているのですが、時間は一定の刻みで過ぎていきます。しかしながら、現場の販売先の実感としては、未だに福島県産の農産物については、相変わらず風評被害を受け続けています。不当に安い価格でないと売買してもらえませんし、まるで困っている私たちの足元を見るような条件を提示してくる業者も跡を絶ちません。２年が経過しましたが、ほとんど何も状況が変わっておりません。なにも前進しておらず、光が見えてくる状況にもないような気がしています。現場の復興は、まだまだ先です。

先日も会津での講演会に行った折に、かつて大熊町でＪＡＳ有機認証を取得され、元気に有機農業に取り組んでいらしてたご夫婦と、久しぶりに涙の再会をしました。原発事故で会津に避難し、その後も未だに会津に避難したままの状態で、「新しい土地を入手し、有機農業を再開する」という目途も立っていないということです。何も進展しない現状に、押しつぶされそうな気持ちに対して、「いつか有機農業を再開して、ぜひまた取引をしたい」というありがたいお話をしていただきました。私も本当に言葉がありませんでしたが、「思いを持ち続ければ、必ず道が開けると思うので、諦めないで強い気持ちを持ち続けましょう」とお話をさせていただきました。改めて奪われたものの大きさに、心が打ち拉がれました。

そんな厳しい風評被害の真っただ中ではありますが、２月１３日に東京の大手町のパソナ本社で、『オーガニック＆ナチュラルセレクト』という題の販売促進イベントを開催させていただきました。企画チームとしては、サブタイトルに『福島復興支援』というテーマを盛り込みましたので、福島

県の有機生産者とメーカーに優先的に声を掛けさせていただき、福島県からは３団体が出店いたしました。特に丸の内のＯＬ層に向けて、オーガニックの試食販売および福島県産のオーガニックの優良商品の販促をさせていただきました。情報と流行に敏感な２０代のＯＬ層向けに、初めて行ったオーガニックイベントでしたが、「福島県に対しては特に支援や応援したい」という方々が多く来場され、厳しい時代のなかで、一筋の光明を見いだせた気がします。出店参加いただいた方々には、たいへんご苦労様でしたが、ともに良き世代の理解者を生み出せたような気がします。パソナ本社における本イベントの評価も高く、おかげさまでその後２ヶ月に一回くらいのペースで継続開催することが決まりました。本当にありがとうございました。

「東京に出てくると、いろんな逆風に会うのではないか」と危惧されている方々も多いとは思いますが、ぜひ勇気(有機)を出していただいて、出てきていただき、大変だと思いますが、皆様の貴い努力と、その復興にかける思いを、メッセージとして強く発信し続けていただければと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

南埜幸信氏の『コラム』は、オーガニックコーディネーターの任期満了とともに今回で終了となります。生産や行政とは異なる視点からのアドバイス、そして福島県を応援する暖かいお言葉、ありがとうございました。